



脩然楼二階奥の間

**脩然楼**

鴻山が、中国の文人陳文燭の書齋「脩然亭」にあやかって名付けたといわれる書齋兼サロン。もともと鴻山の祖父が隠宅として建てた二階建の京風建築で築二百年余を経ている。鴻山を訪れた幕末の志士や多くの文人墨客がここで語り合った。「脩然楼」の額は鴻山自筆。二階には一絃琴の体験コーナーがある。

**文庫蔵**

鴻山が書庫として使用していた蔵。鴻山揮毫の幟旗や遺品、珍しい竹製の一絃琴や鴻山の書画・印章などを展示している。

**屋台庫**

北斎の「怒涛図」で有名な上町の祭り屋台（北斎館収蔵・県宝）を収納していた庫。鴻山と北斎の関係を伝える資料を展示。北斎の下絵をもとに鴻山が描いた極彩色の四曲屏風「象と唐人図」は見もの。

**穀蔵**

高井家は酒造業をしていたので初の貯蔵蔵が幾棟もあった。これは現存する一棟。鴻山の妖怪山水画、梁川星巖や横山上龍ら鴻山の師・知友関係の軸物を展示。

**庭園**

館内にはさまざまな植物が植えられている。樹木としては珍しいペカンの木をはじめとして35種類、草花はチゴユリや巴菊他約60種類にもぼる。四季折々の野の花、秋の紅葉、愛らしい木の実などなど山野草好きの人にはうれしい庭。

《展示内容は企画展によっては異なります。》

**Takai Kozan Memorial Museum**

"Yuzenro," which Kozan used as a study and conference room, his atelier and warehouse, and other related Edo period buildings have been restored and are open to the public as parts of the Takai Kozan Memorial Museum. They now contain important historic artifacts, many of which depict the relationship between Takai Kozan and Katsushika Hokusai.



■上信越道小布施スマートICより約5分 ■長野電鉄小布施駅より徒歩約10分

たか い こう ざん き ねん かん  
**高井鴻山記念館案内図と順路**

- |                 |             |
|-----------------|-------------|
| ① 第1展示室（文庫蔵）    | ① Bunkogura |
| ② 脩然楼（2階建て日本建築） | ② Yuzenro   |
| ③ 第2展示室（屋台庫）    | ③ Yataiko   |
| ④ 第3展示室（穀蔵）     | ④ Kokugura  |



**高井鴻山記念館ご案内**

開館時間 ◆午前9時～午後5時  
(7月～8月は午後6時まで時間延長)  
1月1日は午前10時～午後3時

休館日 ◆年末12月31日 展示替えのため臨時休館あり  
入館料 ◆大人300円 高校生150円 \*小・中学生以下無料  
交通 ◆長野電鉄小布施駅下車、徒歩約10分  
〔車〕上信越自動車道「小布施スマートIC」から約5分 (ETC専用)

〒381-0201 長野県上高井郡小布施町大字小布施805-1  
☎・FAX(026)247-4049

**Information for Takai Kozan Memorial Museum**

Museum Hours / 9:00a.m.~5:00p.m.  
9:00a.m.~6:00p.m. (July through August)  
Date Closed / Year-end (12/31)  
Admission fee / adults:¥300 high school:¥150  
Directions / Get off Obuse station (Naganodentetsu-line) and walk for 10minutes.

Address/ Takai Kozan Memorial Museum,805-1 Obuse,  
Obuse-machi,Kamitakai-gun,Nagano-Ken 〒381-0201Japan  
(Tel/Fax)026-247-4049



**高井鴻山記念館**

信州栗の里・小布施  
**OBUSE**



高井家のルーツから  
華やかで多彩な生涯



愛用の火鉢

教育立県を強調し、晩年は東京や長野に私塾を開いて教育活動に専念したのである。

高井家 高井家は、元和年間(1615~24)に浅間山麓の市村より移住。その後、六斎市を背景に北信濃きっての豪農商となり、飯山藩や京都・丸条家などの御用達を勤め、小布施を拠点に、信州はもとより江戸、京阪、北陸、瀬戸内までも商圏とする大きな商いを展開した。そして、築いた巨万の財を惜しみにくく困窮者の救済に当てた。

鴻山の祖父は、天明の大飢饉に倉を開き窮民を救ったので、その功績が幕府に認められ「高井」の名字と帯刀を許されたのである。

このように高井家は、大実業家であると共に、慈善家としての家風も受け継ぎ、庶民のリーダーとして社会に深く関わってきた。この家風は、鴻山の生き方の根底になっていたといえる。

**Takai Kozan(1806~1883)** During the confusion spanning the latter days of the Tokugawa shogunate and the transition to the Meiji Restoration, Kozan was the man who upheld the principle of "kokuriminpuku"(the prosperity of the country and the happiness of the people) supported by the spirit of "chigyogoitsu"(adding deeds to wisdom) of Yomei-gaku (the Wang Yang-ming school of philosophy), while adjusting to the changes in society. From the age of 15 to 31, he studied in Kyoto and Edo(Tokyo), simultaneously pursuing art and philosophy. He also nurtured meaningful friendships with various people from diverse fields. After he returned to his home town, Obuse, to become the head of his family, he put his heart into philosophy and art, and contributed to improving culture in Obuse. In his later years, he founded private schools in Tokyo and Nagano, and devoted himself to promoting education.

高井鴻山 (文化3年~明治16年/1806~1883)

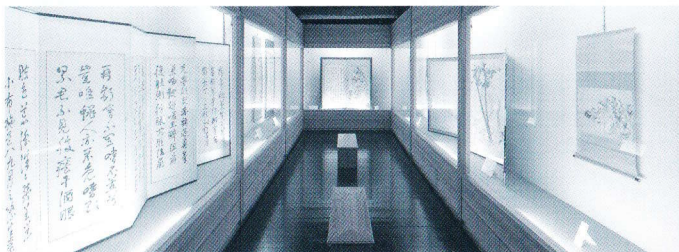
鴻山は、幕末維新の激動期に、その時局の変化に対応しつつ、陽明学の教え知行合一の精神で“国利民福”の信条をつらぬいた人である。

15歳から16年間、京都や江戸へ遊学し、各界第一人者から学問や芸術を修めた。自由で幅広い人脈を築いた鴻山は、父の死により高井家の当主となってからも、学問思想に情熱を傾け、佐久間象山をはじめ当時の日本史を彩った思想家や文人たちとの交流において、鴻山もまた日本の行く末を憂い、巨万の財力を惜しみにくく使い幕末の変革に関わったのである。



高井鴻山肖像(横山上龍画)

また、江戸の浮世絵師葛飾北斎など多くの文人墨客を招き、小布施を文化の香り高い地に育み、飢饉には窮民を救い、維新では教育立県を強調し、晩年は東京や長野に私塾を開いて教育活動に専念したのである。



第3展示室(穀蔵)



象と唐人図

四曲屏風「象と唐人図」は北斎の下絵のもとに鴻山が書き上げた傑作。北斎の小布施滞在によって実現した作品のひとつである。(部分)



菊図

ふたりをめぐる人間模様  
北斎と鴻山

江戸遊学時代に交流のあった画家・葛飾北斎(宝暦10年~嘉永2年/1760~1849)が、鴻山を訪ねて小布施へやって来たのは天保13年(1842)の秋。80歳を越えた老画家が、はるばる小布施を訪れた理由には諸説あるが、天保の改革の過激な取り締まりを避け、北斎芸術の良き理解者であり、経済的な支援者としても頼もしい鴻山のもとへ、身を寄せたと考えるのが妥当であろう。北斎はその後再三にわたって来訪し、鴻山が提供した「碧漪軒」をアトリエに、数々の肉筆画の傑作や鴻山との合作を残した。鴻山は北斎を師と仰いで尊敬し、北斎は鴻山を「旦那様」と呼ぶ、折り目ある交流が続いたと伝えられている。

**Katsushika Hokusai(1760-1849) and Kozan**

In his later years, Katsushika Hokusai, a famous ukiyo-e(Japanese style of painting and making wood-block prints) artist, often visited Obuse from Edo (Tokyo) and would stay with Kozan. Kozan was a loyal supporter of Hokusai's art and also a reliable financial patron. Hokusai completed many great original paintings in "Hekiiken," an atelier built by Kozan. Painting and Calligraphy of Kozan Kozan was gifted with diverse talents as a painter. But toward the latter part of

鴻山の妖怪画

晩年は妖怪画に没頭

晩年の鴻山は、妖怪画を多く描くようになった。若い頃から岸派や浮世絵の第一人者を師匠とし、生気みなぎる画の数々を描き続け



山水図

てきた鴻山が、妖怪画に没頭したのはなぜか。残された漢詩などから、政情や自らの境遇、そして志半ばで夭折した者たちへの深い思いなどが複雑に交錯するなかで、それをのりこえさらに宗教的な有霊感が加わって“万物の魂”を描こうとしたのではないかと推測される。花鳥画、人物画、山水画をすべて吸収して集大成された鴻山独特の妖怪画の世界は、見る者に深い感動を与える。



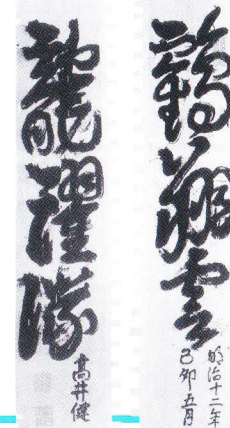
妖怪山水図

鴻山と幟

象山らの影響を受けた書

鴻山が揮毫した幟旗は多く、現在各地で30数対が確認されている。いずれも教育者であった晩年の揮毫で、鴻山が、いかに地域の人々の信望を集めていたかがうかがえる。幕末三筆のひとりといわれた貫名海屋に学び、活文禅師や佐久間象山らの影響を受けて確立した書風は、剛胆で気迫に満ちている。

永江神社(中野市)の幟



his life, he mostly preferred to paint yokai-ga, which depict ghosts and goblins. It is thought that he meant to reveal the irony in life and to express his sorrow for deceased family members and friends. His calligraphic works on "noboribatashi"(banners), which are hoisted during Shinto shrine festivals, can be seen in many parts of the country. Kozan's handwriting is well known to be very powerful.

